

令和2年度第1回港北高校学校運営協議会（書面開催） 議事録
（令和2年6月17日付資料送付）

1 令和2年度港北高校学校運営協議員一覧

- 産業能率大学経営学部長・教授
松尾 尚
- 港北保護司会副会長・港北更生保護サポートセンター長
佐々木 貞貴
- 認定NPO法人びーのびーの事務局長
原 美紀
- 横浜実践看護専門学校副校長
山川 美喜子
- 横浜市立大綱中学校校長
生出 宏
- 横浜市立太尾小学校校長
館 雅之
- 神奈川県立港北高等学校同窓会副会長
田村 千恵子
- 神奈川県立港北高等学校PTA会長
内田 裕美
- 神奈川県立港北高等学校校長
坂田 輝之

<事務局>

- 吉田 悦子 本校・副校長
- 浦 寿 本校・教頭
- 青柳 彰 総括教諭 開発・広報グループ
- 小林 雅子 総括教諭 進路支援グループ
- 迎 直子 総括教諭 学習支援グループ
- 富永 淳 総括教諭 管理・運営グループ
- 服部 明良 総括教諭 生徒支援グループ
- 中根 賢 総括教諭 活動支援グループ

2 資料

- (1) 平成31（令和元）年度 学校評価報告書実施結果
- (2) 令和2年度 学校評価報告書目標設定
- (3) 学校教育計画 令和2年度～5年度「4年間の目標」
- (4) 本校のランドデザイン
- (5) 令和2年度 職務遂行にあたって（校長より）
- (6) 令和2年度 不祥事ゼロプログラム
- (7) 国における緊急事態宣言解除に伴う県立港北高等学校における教育活動等の再開について

3 意見及び改善策の提案について

○<資料（1）平成 31（令和元）年度 学校評価報告書実施結果について>

【教育課程・学習指導】

54 分への授業時間改変については、素晴らしい実績である。その中で出てきた 8 分休憩の課題については、試行錯誤でよい方向に向かえばよい。

【生徒指導・支援】

課題抽出から対処まで、問題なく実行されている。

【進路指導・支援】

探究を重視した教育活動が求められるという指摘は、高大接続の観点からみてもその通りである。「どうやって」実行力のある探究授業にしていくのか、教員の育成とともに、外部の力を借りるのもよい。

【地域協働】

特に問題ない。

【学校管理・学校運営】

新型コロナウイルス感染症対策が直近の焦点となる。ここが他校との差をつけるチャンスである。安全第一は当然だが、この苦境の中で、いかに学習量と質を担保するか、今一度考えてほしい。

<資料（2）令和 2 年度 学校評価報告書目標設定について>

過去の流れを踏襲した上で、新規の取組を行う計画になっており、問題ない。令和 2 年度の 1 年間、もしくはそれ以降も含めて、新型コロナウイルス感染症にどう取り組むかが最重要である。これについては、学校管理・学校運営の問題だけでなく、教育・学習、生徒指導・支援、進路指導・支援といった全体に係る問題である。そのため、港北高校では、この 1 年どう教育活動を行うかという視点からの記述が欲しかった。

○世界的に流行している新型コロナウイルス感染症の怖さを皆が体験している。この点を踏まえ、今年度のみとなるかもしれないが、この感染症から学ぶものが高校生にもあると考える。登校禁止や外出の規制などから不便な思いをしているが、「感染させない、感染しない」意識を高校生に持たせるチャンスである。自らウイルスの感染をしないように日常生活において「清潔」の意識を持つことも高校生にとって大切である。

○昨年あたりから、港北高校に対する地域の関心度が高まっており、生徒の質の向上が見られる。資料の（1）学校評価や（2）目標設定、（2）4 年間の目標については、よく研究されている。（5）のグランドデザインもわかりやすく、港北高校のイメージが十分表れている。（5）職務遂行にあたって、及び（6）不祥事ゼロプログラムについては、他校でも課題がある事案である中、港北高校での取組は、地域でアピールしたい内容である。（7）については、ようやく生徒達の明るい笑顔が見ることができるようになり、地域の皆さんも安堵している。